

シート・イン・コーチ (SIC) による欧米からの旅行者拡大について — スペイン Europamundo 社の SIC 事業 —

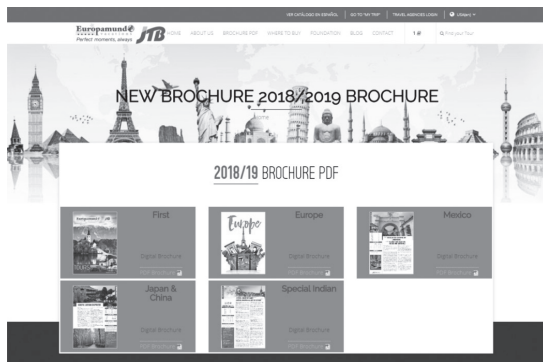
なか ほん とし なお
中原 俊直 前 調査研究センター主任研究員

1. シート・イン・コーチ (SIC) について

欧米などでは観光バスにより広く周遊する乗合型のバスツアーは「シート・イン・コーチ (SIC)」と呼ばれ、旅行形態として日本同様広く認知されている。日本では道路運送法により営業区域が制限されることから、観光バスツアーの移動範囲も比較的近県に集約され、区域外の乗降も制限を受ける。一方、ヨーロッパの旅行会社が手掛ける観光バスツアーには、その地理的特性や休暇文化もあり、一つのバスツアーのコースで複数の国をまたぐものや、長期間に及ぶツアー行程など、様々見受けられる。当然、コースが長期間・広範囲の移動に及ぶとなると、その行程を部分的に利用したいというニーズが生まれることも理解できる。

今回紹介するスペインの大手旅行会社、Europa Mundo Vacaciones S.L. (以下、EMV 社) は、そのような観光バスツアーを多く手掛ける会社である (図 1)。同社はスペイン・マドリードに本社を置き、中南米およびスペイン語圏 22 カ国を対象に 1997 年より欧州コースを中心に SIC 事業を展開している。2014 年 7 月に株式会社 JTB が同社に資本参加するとともに、2017 年度から SIC の日本コースを本格展開したことで知られるようになった。JTB 社の 2017 年度決算資料からも、訪日旅行事業の強化にあたり EMV 社による SIC

図 1 EMV 社ホームページ
2018/19 SIC 掲載パンフレット



出典：EMV 社ホームページより

事業のノウハウ導入に期待を寄せていることがうかがえる。

2. EMV 社の SIC の特徴

EMV 社の SIC の特徴は、参加者の旅行ニーズにあわせ、コース (商品) に柔軟性をもつ点にある。元々各コース宿泊付きで旅行期間が長く、設定日は月 2～4 回程度と限られるものの、コース (商品) の行程をフルで利用するだけでなく、行程の中から利用したい行程部分のみを購入し、利用することができる。

例えば 2018 年度日本コースの基本ルートとして¹⁾、
①「North Japan」ルート：東京～仙台～盛岡～

図2 EMV社2018年度日本コース 基本5ルート



出典：株式会社JTB プレスリリース（2018年3月22日）

函館～札幌～会津若松～東京（10日間）

②「Central Japan」ルート：東京～河口湖～名古屋～京都～長野～伊香保～東京（8日間）

③「Osaka and Kyoto」ルート：大阪～高野山～京都～大阪（5日間）

④「South Japan Express」ルート：大阪～岡山～広島～松山～神戸～大阪（6日間）

の四つと、韓国と国をまたぐものとして、

⑤「Korea and Japan」ルート：韓国～下関～広島（6日間）

以上の5ルートが設定され、ルート上にある都市および観光地を観光バスで巡っていく（図2、カッコ内は全行程のツアー日数）。

実際にEMV社のSICツアーパンフレットを見ると、上記ルート単体のほか、例えば、②「Central Japan」ルートの東京から京都まで、③「Osaka and Kyoto」ルートの京都から大阪まで、④「South Japan Express」ルートの大阪から広島まで、それぞれのルートを部分的に組み合わせ一つのコー

ス（商品）として設定している例も多く見られる。EMV社が販売契約を締結している旅行エージェントの独自コースも含め、商品設定において、基本ルートを組み合わせるにより、効率的にコースにバリエーションを持たせる工夫を行っている。

また、旅行者側においても、各コース（商品）の行程の中から出発日と終了日をそれぞれ1日単位で自由に選ぶことが可能である。つまり、出発日と終了日のパターンで各コースの価格設定がなされている²⁾。コースを部分的に利用することで、例えば二次交通が困難なエリアの観光に移動手段として利用することができるほか、自身で手配した滞在予定地までの観光兼移動手段として利用することができる。別のコース（商品）間で滞在地と設定日が合えば、コース間をまたがって部分的に組み合わせ利用することも可能となる。各コース1名より出発催行のため、旅行者は安心して行程を組み立てられることも魅力である。この

1) 地上手配などは株式会社JTB グローバルマーケティング&トラベルが実施している。

2) オプション以外に日帰りでの利用はできない。

コースの柔軟性と利用のしやすさこそが従来の日本のバスツアーにはない特徴と言えよう。

3. EMV 社 SIC 日本コースの利用実績

日本コースの利用実績として、2017年度は目標の5,000人を上回り、アルゼンチン、メキシコ、ブラジルといった南米の国からの利用が多かった。EMV社が契約する旅行エージェントを通じて世界51カ国で販売されており、2018年度はスペイン語圏に加え英語圏からの取り込み強化を予定しているとのことで、今後ますます欧米を中心とした利用者の増加が期待される。

4. 日本での SIC 展開

SICの日本での展開にあたり、周遊範囲が広域に及ぶものは、まず運行バス事業者の営業区域がネックになると思われる。EMV社の日本コースも、同一のコースで行程ごとに複数のバス会社に分割して運行委託されているコースがある。観光バスは事業者ごとに営業区域が定められており、営業所が所在する都道府県に出発地または到着地が決められているが、現在、訪日外国人旅行者向け事業を対象に、管轄する運輸局の管轄区域にまで営業区域を拡げられる特例措置が講じられている³⁾。

訪日外国人向けツアーによる日本国内の周遊旅行を想定した場合、各エリアの会社ごとにコース(商品)が分かれ、各交通機関からの接続も自分でアレンジしなければならない状況は、訪日外国人の周遊促進という観点からボトルネックとなる可能性が高い。二次交通まで組み込まれた観光バスツアーは、言語・情報あらゆる面でその土地に

不慣れな旅行者の利用が多く見込まれることから、手配の面においても可能な限りワンストップで行われることが望ましい。

こうした日本におけるSICの動きは、全国の観光バス事業者の連携の動きにも発展している。南は鹿児島県から北は北海道まで、国内の貸切観光バス事業者9社により「ジャパン・コースライン・アライアンス」が2017年4月に結成され、第1弾として異なる事業者間をまたがり九州内を広域に周遊する訪日客向け乗合バスツアーの販売が開始された。同アライアンスにより各社のバスを乗り継ぐ周遊ツアーが日本国内にどう広く展開されるか、ぜひ今後の事業者間の連携の動きに着目したい。

現在の日本のインバウンドは、2017年度で訪日外客数のおよそ8割を占めるアジアからの旅行者に支えられているが、それと比較すると欧米からの旅行者の取り込みにはまだ課題も多い。一口に欧米と言っても、対応すべき言語などアジア以上に内訳はさまざまである。2020年オリンピック・パラリンピックやその後の観光振興を見据え、観光バスツアーではあるものの自由度が高く、個人旅行者にも使い勝手のよいSICという一つの旅行形態を通じ、欧米からの旅行者についてもその裾野を拡大していくことが重要と考える。

[参考資料]

- [1] Europa Mundo Vacaciones S.L. ウェブサイト
- [2] 株式会社JTB プレスリリース
(2017年3月2日, 2018年3月22日)
- [3] 株式会社JTB 2017年4～9月期 連結
決算資料 (2017年11月17日)
- [4] 南薩観光株式会社プレスリリース
(2017年4月20日)

3) 2018年4月1日現在、本特例措置は2019年3月末まで延長されている。運輸局の管轄区域にかかわらず、営業所が所在する県の隣接県も臨時営業区域として設定することも可能となっている。